

# 一般質問の概要

平成 30 年第 1 回 二宮町議会定例会

○3月8日（木）午前9時30分～

（善波宣雄、露木佳代、野地洋正、一石洋子、小笠原陶子 各議員）

※2番目以降の質問開始時刻は、直前の質問終了後となりますので、不確定です。

※議員の質問時間は、1件につき40分、2件以上は60分です。ただし町執行部側の答弁時間を含みません。

No	質問予定議員	質問概要
1	善波宣雄 議員	<p><b>災害に強いまちづくりについて問う</b> （放映件名：災害に強いまちづくりについて問う）</p> <p>この町で暮らしていくために町では、総合戦略の基本目標の1番目に、「安心な暮らしを守り、住み続けられる地域をつくる」ことを掲げている。</p> <p>このことについて私は、町の身の丈にあった暮らしやすいまちづくりを目指していくことで、誰もがいきいきと暮らせる環境をつくり、地域の絆を大事にして、災害や犯罪に備える地域づくりをしていくこと、すなわち災害に強いまちづくりを推進していくことが重要であり、このことは時間も費用もかかることだと思うが、中長期的な展望として、どのような計画で推進していくのか町の考えを伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 今後、どのような計画で推進していくのか。</li><li>2. 町内の道路のなかには道幅が狭く緊急車両が通行できない箇所もあり救助や避難の際の安全性、効率性を考えると、道路の整備は必須であり、早期に行っていくことが必要でないか。</li><li>3. 町では、公共利用者の安全性を考慮して、駅前町民会館が廃止になり、また懸案であった役場庁舎建設の方向性がようやく示されたが、災害時、地域の拠点となる地域集会場児童館などについての検証はできているか。</li></ol>
2	露木佳代 議員	<p><b>町民のさらなる安心安全のための、二宮町消防署の人員配置と訓練について</b> （放映件名：消防署の人員配置と訓練について）</p> <p>現在、二宮町消防署は3部制の勤務体系であるが、現状の人員配置では消防力の低下が懸念される。平成30年度までが2部制から3部制の試行期間となっており、現状をどうとらえているのか聞きたい。また、火災が少ないのは良いことだが、若い職員は、経験値の少なさを訓練で補わなければならない。訓練についての状況と課題等を伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 町の安心安全をさらに向上させるための人員配置について</li><li>2. 訓練活動について</li></ol>

3	野地 洋正 議員	<p><b>二宮町空家等対策計画の実効性について問う</b> (放映件名：空家対策はどう進む)</p> <p>昨年 12 月に「二宮町空家等対策計画」(素案)が示された。空家に対するさまざまな課題は、町内に限らず全国的にも問題視されており、平成 26 年には「空家等対策の推進に関する特別措置法」も成立している。法律が制定され、町では計画も策定、また今定例会には「二宮町空家等対策協議会条例」の制定に向けた議案も提出されており、町内の空家対策はさらに進むものと期待される。</p> <p>平成 30～34 年度の 5 年間の空家等対策計画により、今後の対策はどのように行われ、その実効性、効果はどこまで進むのか、以下について問う。</p> <p>(1) 計画策定に至った背景、必要性 (2) 総合計画、総合戦略における根拠、位置づけ (3) 近隣自治体の計画との違い、独自性 (4) 周知、啓発、実行に係る各事業、予算 (5) 町民の負担、また期待すること (6) 計画最終年度(平成 34 年度)の目標、効果</p>
4	一石 洋子 議員	<p><b>町民力を活かしたまちづくりに向けて</b> (放映件名：町民力を活かしたまちづくりに向けて)</p> <p>二宮町では昨年より地域の通いの場がスタートし、地域の状況の違いはあるものの、住民の人間力の出現を見せていて素晴らしい。行政が地域に出向き、危機感を共有する住民が動いた協働の成功事例である。地域で力を発揮される方々のポテンシャルは社会の財産である。貴重な人材とヴィジョンを活かす仕組み作りについて質問する。</p> <p>①二宮が好きだという町民が子どもたちをどうやって自然の中で遊ばせ豊かに育てていけるか、高齢者福祉をどうしていくかについて真剣に考え、自らまちづくりをする動きがある。先日のラディアンミーティングルームで開催された、豊かな地域づくりフォーラムにて、ミッションを持つ町民団体が情報を共有することでさらにパワーアップするのではという提案があった。また昨今行政からも、広報にのみやを通して町が好きだという血の通った人間の声を感じられる。今後福祉の分野で様々なニーズを吸い上げ、柔軟に動きを作る場として様々な世代、人材が繋がり、多くのひとが関わるしかけが必要ではないか。</p> <p>②社会的包摂インクルーシブは今後のケアする社会において重要な視点であり、子どもたちを中心に多くの大人が身に着けたい国際的な教養である。今後のケアするまちづくりを学校を中心に学び合うためにも学校の中で実現したい。二宮町のインクルーシブ教育の現状を問う。</p> <p>③全児童対象の放課後支援である放課後子ども教室が学校で行われることから送り迎えが出来る家庭の子どもだけが参加している。頻度からも本来の要を満たしていない。放課後支援に地域の社会資源を活かし、地域の多世代の交流の中での多様な社会的な居場所を作りたい。地域の集会施設と公園で放課後子ども教室を行うべきではないか。</p>

5	<b>小笠原 陶子</b> <b>議員</b> <b>(2件)</b>	<p><b>認知症や障がいのある高齢者支援の充実について</b>  <b>(放映件名：認知症や障がいのある高齢者支援について)</b></p> <p>1. 認知症初期集中支援チームについて</p> <p>①30年度から全国一斉に認知症初期集中支援チームが運用される。その啓発周知はどうしていくのか。</p> <p>②社会資源や専門の医師の不足が言われているがどのように対応するのか。</p> <p>③初期支援チームは半年をめどにするとのことだがその後の支援の在り方を伺う。</p> <p>2. 介護施設の理解を深めることについて</p> <p>高齢者が介護を受ける状態になり、自宅で支援が受けられない方は施設介護に移行するケースが多いが、どのような介護施設があり、どのように選べばよいかを本人や家族が知ることが大切です。特に男性の方の介護施設利用を拒否する方が多い現状において、元気なうちから理解を深めるために、町は普及啓発に一層の努力を払ってほしいがどのようにしていくのか。</p> <p>3. 地域での見守りについて</p> <p>通いの場は普及したが、通いの場に行かれない方、歩行が困難な方、たとえばミニデイサービスに参加していたが、通いの場には出られなくなった方などの支援をどのようにしていくのか。</p> <p>4. ボランティアの育成について</p> <p>二宮町に住む方々は温かい方が多いという声を聞き、町の魅力となっているが、超高齢社会の中で、地域福祉の現場のボランティア活動する方は少ない。ボランティア育成は急務だし、永遠のテーマです。町のボランティア育成の在り方を伺う。</p>
<p><b>ITサービスコーナー閉鎖に伴いデジタルデバイド解消について</b>  <b>(放映件名：デジタルデバイド解消について)</b></p> <p>デジタルデバイドとはdigital divide. IT (情報技術) を利用できる層とできない層との間で生じる格差のことです。</p> <p>パソコンやインターネットなどの情報技術を使いこなすことで、情報の入手量や質が格段に向上する。一方、使いこなせない人との間に情報格差を生み、それが機会や待遇の差、最終的には貧富の格差にまでつながるという考え方です。</p> <p>ITサービスコーナー閉鎖に伴い、デジタルデバイド解消の対策を伺います。</p>		